

③8 白川「緑の区間」整備事業

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

キーワード 景観保全、利活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

熊本市中心市街地の治水上のネック箇所における堤防整備に当たり、昭和61年の改修計画発表以来、地域住民・行政・専門家が多くの議論を重ね、森の都くまもとの象徴である緑豊かな河川景観を維持しつつ、治水安全度の向上を実現するとともに、市民の利用を見据えた親水空間を整備した点が評価された。

1. はじめに

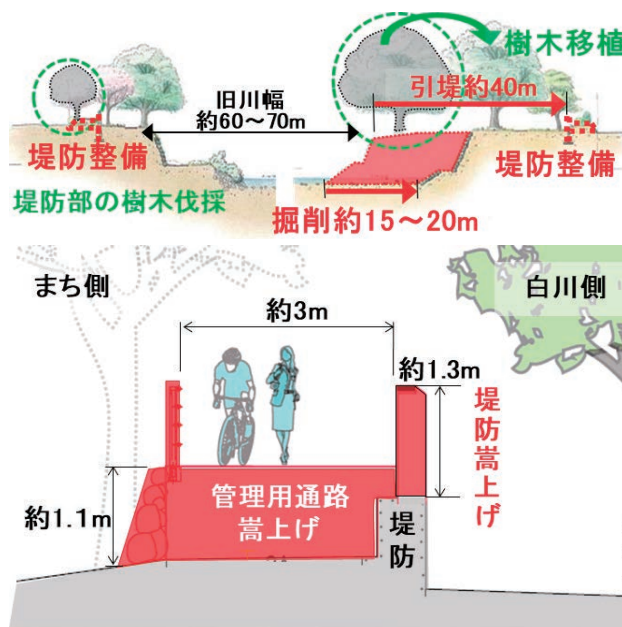
「緑の区間」は、河岸にクスノキやエノキをはじめとする多様な樹木が繁茂し、白川の川面に映る木々の緑と遠方に立田山を望む景観は「森の都くまもと」の象徴であり、熊本市民の憩いの場として親しまれている。一方で、当該区間は上下流に比べて川幅が狭く、治水上のネック箇所となっていた。当該区間から氾濫した水が熊本市中心市街部に甚大な被害を及ぼすおそれがあったため、早急な河川整備が必要であり、平成18年に工事に着手し、令和7年3月に完成した。



整備後の白川「緑の区間」

2. 事業の概要

「緑の区間」の景観を形成している河岸にある樹木を極力残すために、左岸側の河岸拡幅に併せて樹木の移植を行いつつ、両岸の堤防整備を実施した（Ⅰ期整備）。また、護岸整備に当たっては、既存の右岸側の石積護岸に合わせ、島崎石で整備を行い、圧迫感を抑えるとともに、視界を妨げないよう配慮した。その後、治水安全度を更に向上させるため、堤防を嵩上げし、堤防沿いの管理用通路も一体的に整備した。これにより、川への眺望や川沿いの動線も確保した（Ⅱ期整備）。



Ⅰ・Ⅱ期整備のイメージ

3. 事業の成果

Ⅰ期整備完了直後の平成24年7月に発生した出水では、既往最高水位を記録したにもかかわらず、堤防から越水することなく、熊本市街部への氾濫を防止することができた。また、Ⅱ期整備により、計画で定めた目標流量を当該区間で安全に流下させることができるようになり、治水安全度が大幅に向上した。

4. おわりに

堤防の完成により、地域の安全・安心の確保に寄与した。また、緑豊かな河川景観を維持したことで、事業完了後も、市民等が日常的に当該区間を散策路として利用しており、市民の憩いの場として親しまれ続けている。さらに、地域住民が主体となって『白川「緑の区間」利活用推進協議会』を組織し、清掃や除草活動により良好な水辺空間の維持が図られるとともに、白川夜市*が開催されている（3月～11月の第4土曜日）。今後も更に活用されることが期待される。

*地元のお店が約50店舗集まり、飲食物を提供。音楽ライブ、川でのアクティビティやゲーム等も実施している。

賛助会員 (株)東京建設コンサルタント、佐藤企業(株)、(株)橋口組、(株)明興建設